

# 双葉町の復興状況について

資料2-3



ふたばで、  
ふたたび。



令和6年9月  
福島県双葉町



- 災害公営住宅30戸、再生賃貸住宅56戸を整備予定
- 令和4年10月から一部入居開始、令和6年6月全86戸完成。
- 入居者同士のコミュニケーションを育む軒下空間や集会所などを整備



駅西住宅外観



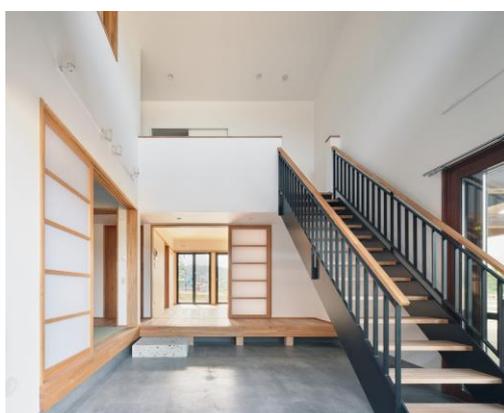
暮らしを感じる路地



軒下空間



大屋根下の軒下



土間玄関



集会所

- 旧避難指示解除準備区域である中野地区において、**町のあらたな「働く拠点」を整備（中野地区復興産業拠点）**。約50ha
  - 2024年9月1日現在**23件の立地**が決定。19件が操業を開始。
  - 被災を伝承し、復興を祈念するエリアとして、アーカイブ拠点施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」や復興祈念公園が整備。これらを拠点に、**復興ツーリズムを育成し、町への人の流れを生み出す地域として位置づけ**。
- ※2020年3月4日に避難指示解除



大和ライフネクストホテル  
(イメージパス)

至 常磐双葉IC 6km

(株)エナジー  
(建設業)



浅野燃系(株)双葉工場

至 JR双葉駅 2km



アルメディオ双葉工場

双葉町産業交流センター R2.10.1開所

復興シンボル軸 (福島県整備)



ビジネスホテルアルムふたば



双葉中央アスコン

## ○震災前、町の賑わいの中心だったJR双葉駅周辺の再生を早期に行う。

JR双葉駅周辺において整備済み、または整備中の事業(『復興まちづくり計画(第三次)』から加工)



## 現状

- 双葉町は、11年5か月という長きにわたり全町避難を余儀なくされ、町民の帰還率等が非常に低い状況。あわせて、商工業や農業等においても同様に低い傾向。
- 他の被災自治体と比べて大変厳しい状況におかれ、復興のステージが大きく異なっている。

### <人口>

震災前の居住人口  
7,140人(2,611世帯)  
現在の町内の居住人口  
**142**人(110世帯)  
→震災前の約**2**%

### <商工業>

震災前の商工会登録数  
179事業者(2011年3月)  
現在の商工会登録数(町内限り)  
**37**事業者(2024年8月時点)  
→震災前の約**21**%

### <農業>

震災前の農地面積  
723ha(2010)  
営農再開面積  
**4**ha(2023年度実績)  
→震災前の約**0.6**%

### <居住可能エリア>

町内の**15**%  
→町内の85%は帰還困難区域  
(R2:4%(避難指示解除準備区域・JR双葉駅周辺)  
R4:11%(特定復興再生拠点区域))

### <教育環境>

現在はいわき市で仮設の学校を運営  
→町内の幼稚園、小中学校は未再開



- 町民の帰還、移住の促進に向け、引き続き、中長期にわたる継続的な取組に加え、復興の進捗に伴って生じる新たな課題やニーズに機動的に対応していく必要がある。

## 復興のステージに合わせた支援

- 双葉町は、今後本格的な復興・再生に向けた取組を加速させていく段階。第2期復興・創生期間以降においても、ハード・ソフト両面で復興財源を確保する必要。
- その際、先行して避難指示が解除された自治体と比べて、制度面や財政面において時間の経過により差が生じることがないよう、十分かつきめ細かい支援が必要。
- あわせて、長期的な復興業務を下支えする、土木・建築系の技術職員、保健師などの専門職員が不足していることから、これらの職員派遣制度を継続する必要。

## 生活環境の整備

- 帰還者向けの住まいの確保、民間事業者の参入促進等による多様なニーズに応じた住まいの確保
- 町内における幼稚園・小中学校の整備、F-REIと連携した教育環境等の整備
- 空き家・空き地の取引の活性化に向けた施策の構築、人口が戻っていない現状を踏まえた雑草対策
- 移住定住促進のための情報発信 等

## 産業の振興

- 商業施設等の整備・再開、新規進出に向けた支援(自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金の継続的措置等)
- 商工会館建設の支援(中小企業組合施設等復旧費補助金の再開等)
- 水路等の農業基盤の整備、営農再開、新規就農の支援等担い手の確保・育成
- アクティビティエリアの整備等観光資源の磨き上げによる交流人口の拡大、公共交通等のアクセスの充実 等

## 帰還困難区域の復興・再生

- 特定帰還居住区域における速やかな除染・家屋解体、上水道等のインフラ整備
- 帰還困難区域全域での避難指示解除に向けた国との継続協議
- 国における帰還意向のない土地・家屋、農地の利活用に対する方向性の明示 等

○ 双葉町における居住の受け皿は圧倒的に不足している状況。新たな住まいの確保が喫緊の課題となっている。

## <住宅配置>



## <住宅整備状況>

エリア	入居時期	戸数	内訳			
			住宅種類	間取り	災害公営	再生賃貸
北エリア①	令和4年10月	25戸	タウンハウス	3DK	6戸	15戸
				1DK	2戸	2戸
北エリア②	令和5年4月	9戸	戸建	1LDK	-	5戸
				2LDK	-	4戸
北エリア③	令和5年10月	5戸	タウンハウス	3DK	3戸	2戸
				1DK	-	-
南エリア①	令和6年6月	21戸	戸建	1LDK	7戸	6戸
				2LDK	8戸	-
南エリア②	令和6年6月	26戸	タウンハウス	3DK	2戸	16戸
				1DK	2戸	6戸
合計		86戸			30戸	56戸

## <入居状況>

令和6年8月1日時点

住宅プラン	戸数	世帯数	入居数	入居率
災害公営	30	22	30	73.3%
再生賃貸	56	44	55	78.6%
合計	86	66	85	76.7%

## <申込状況>

令和6年8月時点

住宅プラン	戸数	申込戸数	入居率見込
災害公営	30	2 (24)	80.0%
再生賃貸	56	10 (54)	96.4%
合計	86	12 (78)	90.7%

令和6年8月時点

